

開催レポート



和歌ノ浦から考える“海洋都市”和歌山のこれからvol.2

主催：和歌ノ浦ブルーエコノミー推進研究機構

日時：令和8年2月22日 日曜日 13:00～16:30

場所：和歌山城ホール4F 大会議室（和歌山市七番丁25番地の1）

参加者数：40名



「スマート養殖からフードテックへの展開」 有限会社伊勢志摩冷凍 代表取締役 石川 隆将 氏



気候変動に伴い、近年の海洋環境の変化は激しく、これまで獲れていた海産物がほとんど獲れなくなったものもあると、現状の深刻さを説明いただきました。

そのようななか、石川さんが語るのは100年後の水産業を見据えて「地元の美味しい食材を世界に届けたい」という思いです。

テクノロジーを取り入れたカキ養殖の事例など、今ある地域の海の資源をどう活かすかの示唆をいただきました。

「シン・海業 ～水産振興と漁村のまちづくり～」 株式会社まるやまと 代表取締役社長 本丸 勝也 氏



国の「海業の推進に取り組む地区」として認定されている「株式会社まるやまと」の代表である本丸さんは、元々はIT業界にいらながらも海が好きすぎて丸山漁港の“海業”に取り組みます。

認定に至るまでの経緯や「住む、働く、学ぶ、遊ぶ、育てる、誰かの役に立つ」のコンセプトをもとにした事業展開をお話いただきました。

特に、様々なステークホルダーと関係性を構築できたことに関して多くの質問が及び、参加者からの関心を集めました。

トークセッション

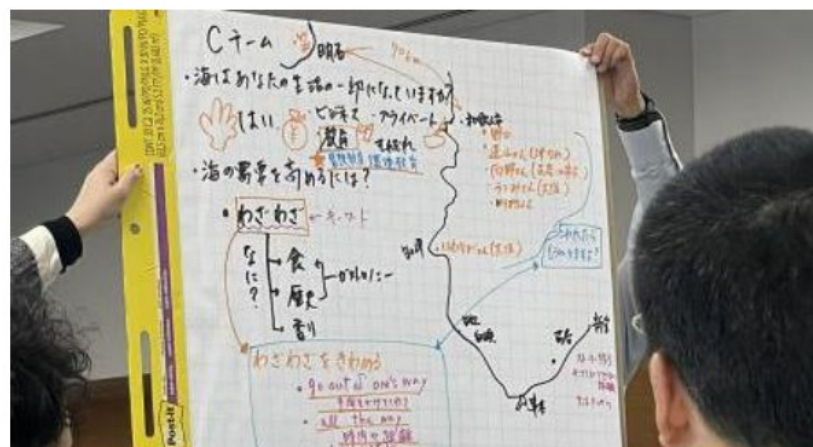
講師として登壇いただいた石川さん、本丸さんに加え、コメンテーター役に当法人顧問の信時さん、そしてコーディネーター役に当法人の楠部代表理事が入り、4人によるトークセッションが行われました。

講演内容の振り返りの後、信時さんからはこれまでの経験をもとにコメントをいただき、テーマとなる“海洋都市”の深掘りを行うことができました。

参加者からも積極的なご質問・ご意見があり、参加者の興味・関心の高さが見受けられました。

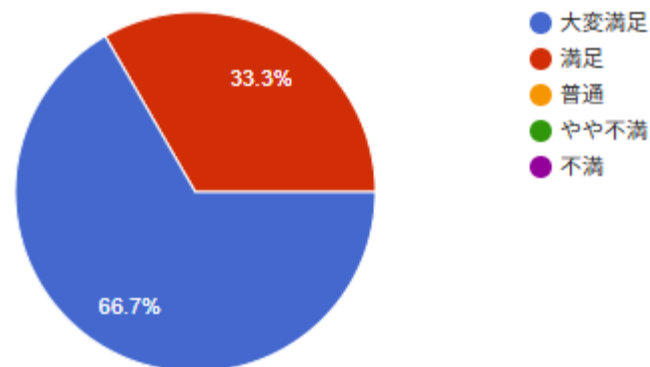


グループワーク



アンケート結果

シンポジウム全体の満足度



理解が深まったこと・気づき

一次産業の在り方

海業による振興の大切さ、合意形成の難しさ、漁師との隔たり、漁港利用のルール、浜の疲弊 地元の当たり前はよそ者にとっての魅力であること（得てして、その事に地元の方が理解していないことが多い）

自分が知らなかった昔の和歌山の海のことがグループで分かれて話してわかった。

理解が深まった

海のこともっと我がこととして、考え行動することが求められる。

海と町との紐付きや現在行われている取り組みについて知れた

“海洋都市”和歌山に自らどう関わりたいか

食を広める

情報共有、意見交換、プレーヤー探し

海に恵まれている和歌山だからこそ海に関わる遊びやスポーツを積極的にしたい。

積極的に関わりたい

もう少し、海に関連した事業に関することも調べておきたい。

自分の研究している海洋環境テーマと紐付けて貢献したい